

2001.7.31 No.35

● sapporo

札幌組 1 年間のあゆみ

基幹運動推進委員会総会 (H12. 3. 12)

定期組会 (H12. 3. 31)

● 青少年部

門徒子弟キャンプ (H12. 7. 27~28)

仏前成人式 (H13. 1. 14)

● 婦人部

寺族婦人会研修会 (H12. 6. 28)

門信徒講座 (H12. 11. 18 門信徒部と合同)

仏婦連盟 1 泊研修会 (H12. 12. 4~5)

全道仏教婦人大会 (H13. 6. 13~14)

● 僧侶部

僧侶研修会 (3回: H12. 7. 21 H13. 2. 23 H13. 6. 29)

声明集の作成

● 門信徒部

総代会総会 (H12. 6. 6)

門信徒講座 (H12. 11. 18 婦人部と合同)**総代会研修会** (H12. 12. 4)

● 広報伝道部

寺院マップの作成

● 連研部

第11期連研終了 (H12. 10. 20)

連研履修者・門徒推進員合同研修会 (H12. 10. 27)

● 情報企画委員会

札幌組ホームページ開設

※拡大表示した内容は、次ページより詳細記事があります

「門徒子弟キャンプ」

青少年部

「大自然の恵の中で、仏の子として生かされていることを自覚し、共に友情を深める。」をスローガンに俱知安町東林寺を会場に、子供達68名大人スタッフ23名計91名という多数の参加者で大にざわいでした。

スタッフは何度も事前に準備会議を開いたそうです。それもそのはず、少しでも子供達に充実した2日間をという思いの中で、バスの中での歌指導から、3回の本堂でのお参り・ゲーム・カヌー・キャンプファイヤー・パン焼き・温泉・乗馬・野外でのジングスカン・移動にトイレ等々書ききれない内容盛りだくさんの上に、多数の参加者、更に小学校低学年が多かったことなど、そのご苦労は相当のものだったそうです。参加者の感想文に「乗馬した夢の森へ行きました。小さな馬に乗りました。夜はキャンプファイヤーをした。一番おもしろかったのは「しょうじきじいさん」がおもしろかった。また、いつかお寺に泊まってみたいです」(真願寺・恵美功太郎) 楽しい2日間だったんですね。スタッフの皆様ご苦労様でした。



全道仏婦大会参加報告

婦人部

6月13日・14日の二日間 教区仏婦連盟の主催、釧路組主管、根室組協賛により、大会テーマ「念仏の声麗しく いのち輝く」を掲げ大谷範子総裁様ご臨席のもと全道各寺院仏婦会員・坊守・住職、約1600名の参加により第27回全道仏婦大会が開催されました。女性僧侶11名による勤行から開会式が始まり2日間に渉る大会が開会され、総裁様のあたたかくそして婦人会員への今後の活動への期待を込めたお言葉を頂きました。

総裁様とともに記念講演

「いのちのゆくえ 新世紀の願い」と題して、米国オレゴン大学助教授 マーク・海野師の日常生活のなかでのお念仏のお味わいのお話をお聞かせいただき、記念対談「これからの お念仏」マーク・海野師と鳥羽 串子師の対談で学び会場を釧路国際センターへ移



し参加者が一同に会する大懇親会歓迎レセプションが開催され交流を深めさせていただきました。

よく14日も記念講演「恵信尼さまと覚信尼さま」と題して鳥羽聿子師の講演に学び感動のうちに閉会式を迎えました。

大会を企画、運営された釧路組・根室組仏婦会員、そして担当の僧侶の皆様の感動の様子に参加者一同も深く感銘を受けました。

本当に皆様有り難うございました、そして感謝致します。

最後に、次回開催予定組空知南組からの大会開催についてのご挨拶があり、参加を楽しみにとの言葉が聞こえました。札幌組仏婦連盟からは会員・坊守・僧侶・組仏婦担当者など25ヶ寺（札幌別院含む）167名が参加させていただきましたことをご報告致します。



「札幌組声明集」作成中

僧侶部

僧侶部では、昨年より組独自の練習本として幅広く活用できる「札幌組声明集」を作成中です。声明・作法の向上のため用いることが出来るよう、大きさはB6サイズ、内容は120ページ位で恒例法要・臨時法要等に使用して頂けるような声明集を目指しております。

今年度中に発刊できるようまた、内容充実のために鋭意検討させて頂いておりますので完成のほどをご期待下さい。

門信徒部

1

平成12年度札幌組門信徒講座

平成12年11月18日(土) 13:30より、本願寺札幌別院に於いて、行なわれました。

本年度は婦人部との合同での講座となりました。講師として、上川南組本誓寺住職の青木圓成氏をお迎えして、「念仏者の生活」をテーマに1時間30分のご講演をいただきました。

当日は参加者123名となり、盛大のうちに午後4時に終了いたしました。

また、日程の中に婦人の参加が多く見込まれると考え、札幌組雅友会の皆様の参加ご協力をお願いいたしまして、雅楽の演奏をして頂き、講座を盛り上げてもらいました。

門信徒部

2

平成12年度札幌組門徒総代会研修会

平成12年12月4日(月) 13:00より、全日空ホテルに於いて行なわれました。

講師に上川北組尊光寺住職の教重文雄師をお迎えし、「総代の現状」をテーマに2時間のご講演をいただきました。本年度は、1泊研修を止め、1日研修といたしました。各寺より、72名の参加を得、研修会のあと、懇親会を催して、なごやかな内に解散いたしました。

広報 伝道部

寺院マップ完成しました

広報伝道部では、平成12年度の事業として「寺院マップ改訂版」作成に取り組んでおりましたが、昨年12月、おかげさまで完成いたしました。各寺ご住職方には、データ収集にご協力をいただきまして誠にありがとうございました。

この度の改訂版の目的は、古くなったデータの更新にありましたが、より見やすく使いやすいものに仕上げたつもりです。ご意見などがありましたら、どうぞお寄せ下さい。



なお、寺院マップは残部が少々ございます。ご希望の方がおられましたら、お知らせ下さい。

連研部

「連研履修者の研修会」が開催される

昨年の10月21日、紅葉真っ盛りの定山溪温泉において、門徒推進員・連研履修者合同研修会が、東京教区多摩組のご門徒さん約80名を交え、賑やかに開催されました。

講師には上川南組の永江龍心先生(永楽寺住職)をお迎えし、合同で行われた研修会は「信心の社会性」をテーマに、連研方式で進められました。講師の問題提起のあと、約10名ずつのグループに分かれ、話し合いを深めました。

多摩組の方々は毎年僧侶と門信徒と一緒に研修旅行をされており、今年は北海道ということでした。多摩組には真願寺ご住職の石堂了正氏の実家のお寺があり、お兄さんが組相談員をされているというご縁から、今回の研修会が実現の運びとなりました。お兄さんは真願寺ご住職同様(!?)、大変真面目な方で、私達も大変勉強になりました。

思えば北海道と東京のご門徒が、不思議な縁(えにし)によって結ばれ、共に親鸞聖人の教えを聞く機会を頂けたことは、稀有なことでありましょう。研修ののちはお風呂につきり、これまた合同の懇親会、その後の(?)懇親会、その後の……、と夜はふけていくのであります。



情報企画 委員会

「札幌組ホームページ」開設

IT時代がいよいよ到来しました。インターネットはこれまでの情報伝達手段とは違います。電話回線とパソコンのあるところどこでも一度に多くの人々と情報を発信することが出来ます。

今までの伝道教化に新たな手段として活用が期待され

ます。

パソコンの持っている人におおいに宣伝して札幌組のホームページを訪ねて頂きたいと思います。やがて、ファクス同様に、インターネットで組内寺院が結ばれ、更に世界の門徒と結ばれる時代が来ると思います。

今後、組内の活動は勿論の事、各寺の行事なども紹介していけるように準備しています。

アドレス <http://www.onishi.or.jp>

教区基幹運動の動き

教区会議員 打本 顕真

本年度から第Ⅲ期基幹運動推進僧侶研修会の開催を運動本部から提起されています。これは教区・組が、それぞれの実情に沿ったカリキュラムを作って取り組まれるようにと願って提起したということです。課題としては、差別事件に学ぶ（二〇〇一年度）・差別問題を自らの課題とするために（二〇〇二年度）・身のまわりの差別（二〇〇三年度）・反差別の教学（二〇〇四年度）・同朋教団とは（二〇〇五年度）と年次に分けて示されており、この課題を札幌組のなかでどのように咀嚼して僧侶研修会に結実させていくか。今後の組基推委の取り組むべき大きなテーマとなっています。

また、教区基推委は、昨年四月と五月に連続して起きた差別投書事件を受けて、対応委員会を発足させ対応要項づくりの検討作業を続けてきましたが、年度頭初に完成の運びとなり、対応委員会は解散致しました。これからは、対応要項のなかに示された今後の課題への取組を教区基推委を中心にすすめることになっています。

昨年に引き続いて、組巡回を行うことが予定されています。テーマは、「ヤイユーカラの森への回答書」と「連続差別投書事件」となっています。昨年の組巡回に札幌組は非常に参加者が少なかったというのが私の印象ですが、今年度は昨年に倍する出席者をと願っています。あってはならない差別事件や人権侵害の問題が次々に起きる宗門現状を考えると、単なるかけ声ではなく実質の伴う基幹運動の推進がいよいよ必要だと思わずにおれません。

折しも基幹運動の新計画は三つのポイントからなっています。それは、「僧侶と門信徒の課題の共有」・「御同朋の願いに応える教学」・「同朋教団の再生・御同朋の社会をめざす運動」の推進ということです。組基推委がこれらポイントをどのようにおさえて運動を進めていくのか、それもまた私たちの眼前の大きな課題といわねばなりません。



6月12日 真照寺 開基90周年記念法要

前日の11日には報恩講法要が修行されました。当日12日は、午後1時より真照寺様の開基90周年記念法要が修行されました。引き続き2時より記念式典、そして広島市出身で、現在、テレビ・講演・随筆などに辛口派として大活躍されている作家の佐々木久子先生をお招きして、特別記念講演が行われました。



6月23日 真宗寺 開基25周年記念法要

開基二十五周年を迎えて、念仏弘通の道を新たな思いで歩ませていただいております。お念仏の道場としてのお寺を充実させたいその願いひとすじに二十五年を歩んで参りました。浄財を募りに募り借財に借財を重ねて走り続けて参りました。

冷静に思いますに、役員さんをはじめ門信徒の方には、よくぞ私の願いを受けとめて協力してくださったものとただただ頭を下げるばかりであります。

組内御法中の皆様には今後共、宜しくご指導下さいます様お願い申し上げます。

(真宗寺住職 打本 道彦)



6月24日 法城寺

開教50年記念慶讃・本堂等落慶・二世住職継職奉告法要

当日9時半に花火の合図で、雅楽の奏でる中、庭儀（稚児行列）が始まりました。そして、午前11時より開教50年記念慶讃・本堂等落慶・二世住職継職奉告法要が併修されました。引き続き正午から記念式典が行われ、その後、場所を隣の札幌サンブラザで記念祝賀会が賑やかに開催されました。翌日は、報恩講法要が厳修されました。



7月8日 寶流寺

開教百年記念慶讃・本堂等落慶・第四世住職継職奉告法要

前日7日には午後1時より報恩講法要が修行されました。当日8日は、午前11時より寶流寺様の開教百年記念慶讃法要が修行されました。そして、午後1時から住職退任式、住職継承式に引き続き、第四世住職継職奉告法要が厳修されました。引き続き記念式典が執り行われ、その後午後4時からグリーンホテル札幌に会場を移して、記念祝賀会が賑やかに開催されました。



5月12・13日 札幌別院 蓮如上人500回遠忌法要・寺基移転40周年記念法要

去る五月十二（土）・十三（日）日の両日札幌別院にて御門主をお迎えし、「蓮如上人五〇〇回遠忌法要・寺基移転四十周年記念法要」並びに「門信徒会十周年記念行事」が好天に恵まれ、約千五百人の参拝者で満堂の中厳修されました。

初日の門信徒の集いでは、札幌組乗善寺・空知北組光徳寺・札幌別院の合唱団による仏教讃歌で御門主を迎えたり、二日目は帰敬式・献茶式、庭儀の後にご親修法要がお勤まりになりました。



ニューフェイス

昨年の春より寺坊にもどり、微力ながらも法務を手伝っております。

帰ってきてまだ一年あまりですが、あっという間に10キロも太ってしまいました。食事の心配しなくていいなあと有難いと思っていたら、あれよあれよと……。皆さんご存じないでしょうが、いまの体型は仮の姿で本当はスリムな体型なのです。しかし、おいしいものを食べに行くというお誘いは絶対に断りません。

ぜひともお誘いを。

お酒は勿論、バイクにスノーボードに映画も大好きな若干25歳。空手をやっておりますが、ちょっと最近、脂肪が……。

組内の皆さんにいつもお育ていただいておりますこと深く感謝申し上げます、これからも宜しくお願ひ申し上げます。

真照寺 松本昇陽くん



 覚英寺坊守 海野 敦子

《嫁いでからの想い》

27年前に真白だったキャンパスは 寺族、門信徒の皆様のお育てによりいろいろな色や形に少しずつ描かれてゆきました。曹洞宗の在家に育った私は浄土真宗はまったく未知であり無知の世界だったのです。この私を辛抱強く、我慢強く諦めずにお導き下さった住職 前住職 前坊守には本当に頭の下がる思いです。また先にお浄土へ旅立った我が愛娘も善知識としてお聴聞の席へ導いてくれました。婦人会の皆様はいつも何かと知恵を授けて下さり それは“なるほど、なるほど”とうなずかされる事の多い日々です。



《これからの抱負》

振り返ってみますと、いろいろな方達のお育ての内に今 生かされている自分があることを知らされております。今後は 若い方達が一人でも多く寺に足を向けて下さり 私が今まで多くの方から頂いたものを その若い方達に伝えていくことが出来れば私の人生を振り返った時に満足するものになるのではないかと思います。めでたく引退の時まで元気に走りつづけられたら幸せです。

《趣味》

(気持ちの中では) 軟式テニス (生涯の友です) ・手工芸 ・詩吟

 うちの坊守さん

 乗善寺坊守 藤田葉志子

《嫁いでからの想い》

お寺で生まれ育ったとはいえ何もかも知らない事づくし…。嫁いですぐに前住職が組長になり、慣れないままに前坊守の見様見真似の中でお手伝いをさせてもらいましたが、おかげで組内の方々とも早くに面識が出来、親しくお付き合いをさせていただく事ができました。

すべてが新鮮に思われたあの当時が懐かしく思い出されます。皆様に助けられながら何とか今日まで過ごして来ましたがいつの間にか30年が過ぎてしまいました。本当に早いものです。

《これからの抱負》

最近、私は坊を守る坊守ではなく、坊によって守られ、育てられてきた自分だどつくづく思い知らされています。人並みに歳を取り、満身に頭と気持ちが伴わない今日この頃、今まで支えてくださった皆様に感謝しつつ、これからも身体に気を付けてみんなの寄りやすい明るいお寺にする様に心がけ、辛い時もありますが楽しいやりのある坊守を微力ながら寺族みんなと力を合わせ、これからも如来さまと一緒に歩ませていただきたいと思います。



《趣味》

最近、革細工に取り組んでいます。

書評

「なぜ生きる」 高森 顕徹 監修

明橋 大二・伊藤 健太郎／著 定価／1500円＋税 発行所／1万年堂出版

戦争、殺人、暴力、虐待などは、「生きる意味があるのか」「苦しくとも、生きねばならぬ理由はなにか」必死に求めても知り得ぬ、深い闇へのいらだちが、生み出す悲劇とは言えないだろうか。

たとえば少年法を改正しても、罪の意識のない少年にどれだけの効果を期待するか、と懸念されるように、これから諸問題の根底にある「生命の尊厳」「人生の目的」が鮮明にされないかぎり、どんな対策も水面に描いた絵に終わるであろう。

「人生の目的はあるのか、ないのか」

「生きる意味は何なのか」

人類は今も、この深い闇の中にある。

どこにも明答を聞けぬ中、親鸞聖人ほど、人生の目的を明示し、その達成を勧められた方はない。

第一部は、直面する問題点を中心に、文学者や思想家の人生論を。

第二部は、聖人の言葉をあげて、古今東西、変わらぬ人生の目的を。



報恩講おとぎ紹介

本誓寺

本誓寺の報恩講は6月8、9、10日の3日間、勤まります。

お手伝いして下さる方の地区を4つに分けて、お願いしています。

献立もおまかせです。今年の献立は、ちらし寿し、フルーツサラダ、ホーレン草のおひたし、漬物、煮物、お吸い物、そして毎年かかさず、おつぼです。おつぼは人気の一品です。おちらしの入れ物は、残した物を持ち帰れるように、バックを使用しています。

ご法中のお食事は中日のお昼は一般参詣者と同じ物ですが、夕食はプロの方に作っていただいています。その前に午後5時に、おそばを食べていただいています。次の夕食までにおなかいっぱいになってしまう方が多いので時間を考えなくては…と思っています。ご満座もお持ち帰りが良いのではと思って、お持ち帰り容器にして、生寿し、うなぎ、エビ天重など毎年品を変えていますが、ほとんどの方が食べて行かれるので、お持ち帰り容器にしなくても良いのでは…と思っています。

ご満座が終り、お手伝いの皆さんですっかり清掃をしてやってお食事をするのは1時をまわっています。

おひとり、おひとりにジュースやビール、お酒をついでまわり、お礼を述べて報恩講が終了するわけですが、ある方のお話の中で、「多勢の食事作りで大変だったけど、皆の心が1つになって、とても楽しかった」というお話が聞けました。

ご法儀を聞くことももちろん大切だけど、食の大切さも様々なことにつながるということを学ばせていただきました。

(本誓寺坊守談)



番外編

正信会関連

「聞余の会」と「正信会」との合同研修会

「聞余の会」とは大谷派の組内若手僧侶の会で、両会の会員数名が是非一度交流会をとの発案により、昨年、初めて「聞余の会」が企画して下さった第1回の「正信会」と合同の研修会を大谷派札幌別院で開催しました。

その後今年5月〇日、今度は正信会が企画して、本願寺札幌別院で第2回目の合同研修会を開催しました。それぞれの別院を見学する機会がなく、聞余の会会員も興味深く、別院の内陣に入って副輪番の説明を熱心に聞き取り、その後ホールに戻って、「伝道」というテーマにのって各グループで話し合いをもちました。都市化での伝道の困難さなど多数の意見や感想が活発に交わされ、共通の悩みにそれぞれがうなずき、それぞれの立場で共に教化伝道に励もうと研修会は盛会に終了しました。その後は勿論スキノで更に交流を深め…。野球交流も数度行っており、今後も定期的に合同研修を行う予定だそうです。



「正信会カレンダー」・・・・・・・・・・・・・・・・

正信会カレンダーも年々部数も増え、現在約六万八千部ほどの部数を発行しており、好評をいただいております。例年は、会員が法語を持ち寄りその法語を掲載しておりましたが、来年のカレンダーは、乗善寺門徒の柴田崇幸さんが挿し絵と法語を担当してくださいました。

柴田さんは、現在三十六歳ですが幼少期より、手足、言語等の障害をかかえておりますが、少年期から仏さまの絵やお寺が大好きで、現在も乗善寺の常例法座にはお母様と一緒に欠かさず参拝されておられます。当初は挿し絵の版画をお願いしたのですが、彼の今までに書いた、彼自身のお念仏の味わいの俳句を拝見させていただき、会員一同深く感銘し、もしよければ法語を書いてみませんかという無理なお願い申し上げたところ、快く引き受けて下さいました。

数十点もの法語と挿し絵を不自由な手で一生懸命描いていただいたその一点一点は、本当に素晴らしく、その感想を申したところ、彼は満面の笑みをこぼして答えてくれました。本当によく笑みをこぼし、お念仏を心から喜ぶ柴田さんの法語と版画、楽しみにお待ちしてください。

本堂で演劇説法

乗善寺・降誕会

7月2日、乗善寺の降誕会法要にて、法要終了後、本堂で演劇説法がおこなわれました。

この演劇説法は、青僧協で例年行われている温泉説法で、今回は、出演者が全員札幌組の若手ということもあり、乗善寺住職さんからのご厚意により、初めて本堂で上演されました。

「袖ふれあうも多生の縁」という題で、都市部のある町内会を舞台に、老人の孤独感と若者達の悩みを織り交ぜ、歌あり、笑いあり、涙ありの舞台上、当初、出演者は本堂でできるか不安だったようですが、その熱演により、参拝者は、大きな声で一緒に歌い笑いと、一体感の中で素晴らしい舞台となりました。

その後、劇を受けてのお説教が約20分程、出演者のお爺さん役・桜庭さん（千正寺）がお爺さん役のまま、布教され、更に劇を盛り上げました。

演劇でお説教するという新たな試みと、若手僧僧侶の熱演は、参拝者に多くの感動を与えました。出演者の皆さんご苦労様でした。公演依頼あればどちらにでも（出演者の日程調整がうまく合えば）お伺いしますとのことですので、いかがでしょうか。



編集後記

本来なら、3月に発行すべき組報でしたが、私の怠慢により、今回は合併号という形で発行することになりました。昨年の7月以降の内容になりますので、記事によっては1年前のことになり、新鮮味が欠けてしまいました。申し訳ありません。

あっという間に過ぎていく1年ですが、本当に1年1年の印象が、だんだん薄れているような感じがします。それはイコール自分の生き方（ちょっとおおげさですが）が薄っぺらくなっているのと同じなのかもしれません。平成10年はどういう年だった？、平成11年は？と聞かれても、すぐには答えることができない有り様です。1年間何をしてきたかな？組報の編集をしながら、そんなことを考えています。

組報が、そんな自分の足跡を少しでも見つめる一助になればと願っています。（千正寺・高塚浄正）